

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	PARCにしのみや		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 1日		2024年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数) 10名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 4日		2025年 1月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・人的要素(スタッフ間連携) セラピストの配置 (理学療法士、作業療法士、言語聴覚士) 保育士・児童指導員がメインとした個別療育	・ひとりひとりに寄り添った療育 子どもに合わせて、来所される前に環境設定を行っている 専門的な支援をスタッフ間で共有して保護者へ還元する ・伝達研修の充実 専門職が学んだ知識をスタッフへ還元している 意識的に研修へ参加している	・密なコミュニケーション 専門職のさまざまな意見を出し合い、さらなるスキル向上へと繋げていく。 ・やってみたいと思える環境の準備 能動的に「できる」を引き出すことができる環境支援をより一層強化していく
2	・親子療育 保護者の方にお子さんを客観的に観察していただくことで、 子どもの成長を感じる 保護者もホッとできる環境を準備する	・即時フィードバック 職員が都度、ご家庭の様子や園、学校の様子をお伺いしている 個別療育の様子を降所時や保護者とお話する際に共有する	・意識した中での療育の共有化 距離感や言葉掛けなどすぐにフィードバック 経過を共有して療育とのリンクを図る 集団療育にて、ねらいに沿った関わりを目指す
3	・行政連携 保育所等訪問支援や地域の会を通して学校・園との連携にて 相互に成長(課題)や必要性を共有できている	・学びの場を増やす 職員が積極的に研鑽できる時間をつくる 行政との連携にて必要とされる事業所づくりを目指している 連絡会(西児連)で役割を果たし地域の担い手となっている	・職員のモチベーションや役割認識強化 子どもたちのためにできることを一人一人が考える時間や環境を確保していく 企画をそれぞれが出し合い「やってみたい」を実現できる取り組みを実施する

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・イベントが少ない 集団療育など子どもへの取り組み(企画)は実施できているが、保護者向けである茶話会や保護者会等を現状取り入れていない	・人員不足 現状として、スタッフの人員が足りていない 個別性の高い療育のため一人一人の負荷は大きい	・人員を確保する お仕事説明会などPARCの魅力を伝える 求人活動を積極的に行う
2	・療育の意図 ただ遊んでいるように見られ、療育の意図が伝わっていない (特に利用初期の方に多い)	・十分な説明や理解 限られた時間(個別療育での1時間)の中で子どもの様子や変化、療育意図等を説明できていない	・関係性の構築と可視化 保護者と信頼関係を築く中で、療育の説明を伝えていく 可視化できるツールを準備して理解を深めていただく
3			